

## オミクロン 常に感染 意識して 先を見越した 行動を!



この社内報を作成している現在(8/25)、新型コロナのオミクロン株(BA5)による第7波の猛威は、いまだ衰えていない状況です。コメットのスタッフの中にも、意に反して感染者及び濃厚接触者となり、仕事を休まざるを得ない方もおられます。幸いなことにどの方も症状は軽く、数日の休養と隔離期間を経て、元気に復帰されております。感染力がかなり強い今回のオミクロン株。自分が何時どのような形で、その影響を受けるか分かりません。今まで以上に先を見通した行動を心掛ける必要があります。

さて今回の社内報では、残暑厳しい中、着用の判断が難しい「マスク着用」についてまとめてみました。コロナの収束がまだまだ不透明な現在、感染予防対策の基本である「マスク着用」の参考にしてみてください。

## こまめなマスクの着脱で、安全安心で快適な生活を!



### 1. マスク着用の考え方

マスク着用の考え方	身体的距離(2m以上)が確保できる		身体的距離が確保できない	
	屋内(注)	屋外	屋内(注)	屋外
会話をを行う	着用を推奨 ※十分な感染対策がされていれば外すことも可	着用の必要なし ※ランニングなど離れて行う運動(密にならない)	着用を推奨	着用を推奨
会話をほとんど行わない	着用の必要なし	着用の必要なし	着用を推奨 (通勤電車の中など)	着用の必要なし (徒歩で人とすれ違うなど)

(注) 外気の流入が妨げられる、建物の中、地下街、公共交通危機感の中など

※ 夏場は熱中症防止の観点から、屋外の「着用の必要なし」の場面では、マスクを外すことを推奨。

※ お年寄りと会う時や病院へ行く時など、ハイリスク者と接する場合には、マスクを着用する。

### 2. 小学校就学前の児童のマスク着用について

- 2歳未満(乳幼児)は、引き続き、マスクの着用は奨めない。
- 2歳以上は以下の通り、オミクロン株対策以前の新型コロナウイルス対策の取り扱いに戻す。



「保育所等では、個々の発達の状況や体調等を踏まえる必要があることから、他者との身体的距離にかかわらず、マスク着用を一律には求めない。なお、施設内に感染者が生じている場合などにおいて、施設管理者等の判断により、可能な範囲で、マスクの着用を求めることは考えられる」

### 3. 就学児(小学校から高校段階)のマスク着用について

～マスク着用の必要がない場面～

屋外…人との距離が確保できる場合(離れて行う運動や移動・密にならない外遊び等)

距離が確保できなくても、会話をほとんど行わないような場合(自然観察・写生活動等)

屋内…人との距離が確保でき、会話をほとんど行わないような場合(個人で行う読書や調べ学習等)

学校生活…屋外の運動場に限らず、プールや屋内の体育館等、体育の授業や運動部活動、登下校の際

(厚生労働省HP参照)



これはあくまでも判断基準です。見て頂いても分かるように、さまざまな場面において、絶対着用・非着用としている訳ではありません。まだまだ残暑が厳しい中、無理にマスクの着用を続けることで体調を崩すようでは、本末転倒になってしまいます。今回の内容を参考にして、時と場合に応じて対応して頂ければ幸いです。

## 編集後記

3月の春分の日と同様に、昼と夜の長さが同じになると言われているのが、9/23の「秋分の日」です。1948(昭和23)年に、「祖先を敬い、なくなった人をしのぶ」ことを趣旨として制定されました。

秋分の日に「おはぎ」を食べる習慣があることは、ご存知かと思います。おはぎに使われている小豆は、その赤い色から災難から身を守る効果があると言われ、邪気払いと先祖供養が結びつき、江戸時代から庶民の間で広まったそうです。

このおはぎと全く同じものが、春のぼた餅です。春は「牡丹」が咲く時期なので牡丹(ぼた)餅と呼び、秋は「萩」が咲く時期なのでお萩(はぎ)と呼ぶようになったそう。この二つには微妙な違いが、形と包む餡(あん)にあります。

まず形。ぼた餅は牡丹を模した大きく丸い形。一方おはぎは萩の花のように小さめの楕円形とのこと。次に餡。ぼた餅は「こし餡」、おはぎは「つぶ餡」で作るそう。これは小豆の収穫時期が秋であることが原因。秋にとれたばかりの小豆は、まだ皮が柔らかいので粒餡のおはぎに。一方ぼた餅は、春まで貯蔵している間に小豆の皮が硬くなるため、皮を取り除いたこし餡にしたとか…。



